

常和を元気にする復興まちづくり事業

取組に至る背景・事業の目的

- 佐久市常和区では、台風19号により住宅の損壊、浸水被害、農地への土砂流入、山林の崩壊など過去に例のない大きな災害が発生した。
- 安心・安全に暮らし続けることのできる地域をつくるため、住民が主体となって地域防災力の向上やコミュニティーの再生に取り組む。

事業内容

- ① 広報・災害伝承活動
 - ・まちづくり活動や災害復旧事業の状況等をまとめた「復興まちづくりだより」の発行（全6回）
 - ・復興誌発行に向けた被災時の写真等の関係資料収集
- ② 避難体制の強化
 - ・災害時のリーダーとなる防災士の育成
 - ・県や市と連携した防災勉強会の開催
 - ・区独自のハザードマップ、避難基準の作成
 - ・一時避難所に関する近隣企業との協定締結
- ③ 復興拠点の整備
 - ・区民協働による被災箇所周辺の整備（土砂撤去等）
 - ・整備した復興拠点における災害ボランティア等を招いたイベント（復興大根収穫祭）の開催



【協働で防災マップ作り】



【復興大根収穫祭】

事業効果

- ① 定期的にまちづくり活動の状況を全区民や関係機関、報道機関などに情報発信することができた。
- ② 地域独自の取組みとして、雨量、河川水位を指標とした自主避難基準の策定や、近隣企業と一時避難所に関する協定を締結するなど避難体制の強化を図ることができた。
- ③ 多くの区民の参加により復興拠点となるつつじ公園の拡張や、ボランティアへのお礼イベントを開催し、新たなコミュニティーも生むことができた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 災害復旧工事が行われる約4年間において、地域の防災力を向上させるために防災リーダーの育成による自主防災組織の強化や地域独自の避難体制の構築に向け、活動を継続していく。
- また、地形的な特性から将来同様の災害が発生するおそれがあるため、気象データや災害当時の様子などを世代へ伝承するための取組み（復興誌の編集）を進める。
- 楽しみながらまちづくり活動を続けていくために、復興拠点に多くの人が集まり、喜んでもらえるようなイベントも行っていく。

【選定のポイント】

令和元年台風19号による区への大きな被害を受け、地域住民が主体となった避難体制の強化や、復興状況の区民への周知、復興拠点の整備による新たな交流の創出等、地域防災力の向上、地域コミュニティーの再生を図った。今後も、自主防災組織の強化や、災害状況の後世への伝承、他地域との連携を図る取組が期待される。

団体名	佐久市常和区	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	佐久市常和 1728	事業費	872,771円
		支援金額	690,000円